



文責 森本 聡一郎

心身の健康維持。進路目標の決定

普通であることを最低限のレベルと心得よう。

その最低限のレベルをどこまで上げていくかが課題です。

## 1. 「当事者が体感する “倍目八目” 以上のもの」

碁の世界では「倍目八目（おかめはちもく）」という表現があります。実際に碁を打っている対局者よりも、傍（はた）で見ている者の方が良い手に気づいたり、より正しく読めることを言ったもので、第三者の方が当事者よりも冷静かつ客観的にものごとを見ることができるといって使われます。しかし、当事者が体感する臨場感や興奮、その中から生まれる実践心理というものこそが醍醐味であって、評論家が観念の範疇でしか理解できないのとは意味合いが違うのです。要するに、その場に居合わせて、その空気を感じる体験をした者にしか分からない部分があるということです。

卒業式で歌った校歌。生徒が大声で歌う校歌に圧倒されたり、時には戦慄さえ感じるものが何年かに一度あります。私にとってのそれは、数値で示される音量の問題ではなく、ましてや芸術的完成度の高さの問題でもなく、その場に居合わせた者のみが肌身で体感する感覚の問題なのです。今年の卒業式、一生懸命に歌う3年生の姿は美しいと感じました。

卒業して何十年。それでも校歌が口ずさめる者が何人いるかが、その学校の値打ちではないでしょうか。実際にそのような方々が多数いるという事実をキミ達はどのように感じますか。今とは違って、入学式前の練習もなく、校歌の意味も教えられず、歌唱練習の時間もほとんどなく、ただ、始業式、終業式、体育大会そして卒業式で歌っただけの歌をいつまでも覚えているのは、それが一時的に覚えたものではなく、彼らの心に刻みこまれたものだからでしょう。結局は「思い入れ」、それに尽きるのではないのでしょうか。感動した心が覚えていることは一生の宝物です。

以前にも、2年生にとっては、もう何をしてもう一つひとつが「高校生活最後」の行事になるのだと言いましたが、その一つひとつに思い入れを込められているかどうかで、キミ達の人生の思い出の数が全然違ってきます。反対に、何も思い出せないような時間が多い人生にどれほどの価値があるのでしょうか。高校生活に限って言えば、キミ達には幸いなことに、心に刻める時間がまだ1年あります。

どうか「思い入れ」というものをもっともっと大切にしてください。夢中になって何かをして、自然と涙が湧いてくるほどの感動を体感してください。



## 2. 「私の恩師」

### 1組担任 小池亮太の場合

私にとっての恩師は…正直それぞれの場面で影響を受けた人はたくさんいるので、一人には絞れませんが、“教師になった自分”と考えると、中学校時代にお世話になったS先生ですね。S先生は中学1年生と2年生では「国語1」（現代文と古典の読解）の授業を担当していただき、中学3年生の時は「歴史」と「国語2」（いわゆる文法のみ）の授業を担当してもらいました。一人の先生が複数の教科を教えていました（笑）。S先生は、とても厳しく、授業開始時に静かに着席して待つ、毎回の授業で忘れ物をしたら、最終成績から減点、報告しなければ最終成績の半分を減点など…（涙）。しかし、3年間を通して、“学習する”とは何かを教えていただきました。授業を受ける態度、日々の勉強、つまり、受け身ではなく、自分で主体的に学びに行くということです。それは、教科の学習だけでなく、日々の予定（時間割変更や持ち物など）や、提出すべき書類など、「学校を休んだから僕は知りませーん」では「なぜ友達に聞くということをしなかったの？」「朝に担任に確認することってできたよね？なぜしなかったの？」と言われてしまいます。あくまで情報は自分でつかみに行く、ということをしなければ、社会に出たときに苦しむのは子どもたちである、ということからです。そのスタイルを私は引き継いでいるつもりです。

もう一つ。私はこうして日本史がメインの社会科の教員となりましたが、高校時代は数学も得意でした。そのため、数学の教師になることも考えていました。そして、高校1年生の秋のある日のこと。2年生以降の文理選択を提出しなければならない日が明日に迫っていました。歴史の教員なら文系に、数学の教員なら理系に進まなければなりません。決めかねて、隣にある中学校の校舎にいるその先生に相談しようと思いましたがおられず…。夜に自宅に電話をかけるという暴挙にでました（あの頃はまだ若かった）。その際、「お前は歴史なら本気出せば自分で勉強できる。数学…というか、理系科目はきっと教えてもらわないと理解できひんぞ。だからその二つで迷っているなら理系に行けば？」と言われました。続けて、「人生ってな、何かを選ぶってことは何かを捨てるってことやねん。だから、先にまで可能性って残せるなら残す方が絶対ええぞ。」と。これは今でも、自分自身にも、君たちにも話することです。「人生は重要な選択肢の連続」であるということに気づかせてくれた先生です。まあ、これがもとで、私は高校で日本史の授業を受けることがなかったので、教員になるために、一から自分で勉強することになり、とても大変でしたが…。その先生には、教育実習も担当していただき、就職してからも、担当学年の学年主任であったため、私にとっては“親分”のような先生でした。厳しくとも、真剣に向き合っていれば、必ず手を差し伸べてくれて、最後の砦のような存在。私も君たちにとってそんな存在になりたいと思います。

### 2組担任 細川和嘯の場合

私の恩師は高校生時代に通っていた塾の先生です。私の15歳ほど年上の夫婦で経営しているアットホームな塾でした。その夫婦とは今でも付き合いがあり、人生で大事な事やぶっちゃけた塾の経営の話など、勉強以外のことも勉強と同じくらい、いやそれ以上に教えてくれます。たくさんのお話を教わりましたが、今でも特に大切にしているのは「どんな出来事・人からも学ぶべきことが隠されている」ということです。人生、色んな悩みは付きものです。私が相談をする度に「でもそのことから、〇〇ってことが分かったよね」とか「嫌なその人でも〇〇なことを教えてくれてるんやで」が口癖でした。そんな2人の言葉から「物事を色んな面から見ること」「意味のない出来事などない」という考えが身に付きました。以降、日頃の生活で一見ネガティブに感じることもあっても、「この出来事からどんなことが学べるかな」とか「あの人がこんなことをされて嫌だったから、自分にはしないでおこう」などと学びに変えるようにしています。皆さんも高校生時代、そしてその後の人生も色々な事がありますが、「全ての出来事は学び」「どんな人からも学びがある」ことを意識してもらえたらと思います。同じ出来事が起こっても、その出来事を

どう解釈して成長につなげるかはその人次第。人生、色々あるけど自分次第で何とかなることもたくさんありますよ！「この出来事からいっぱい学んでやるぞ～」くらいの気持ちで生きていこう！

### 3組担任 北倉美沙の場合

「お前もう無理やって。現実受け入れろや。」高校3年生の冬、センター試験後の面談で担任の先生に言われた言葉です。厳しすぎる一言でしたが、この言葉が、私の人生を変えました。私は高校入学時から、教師になるために公立大学を目指して勉強していました。しかし家計は厳しく、父は進学に反対していました。どうすれば覚悟が伝わるのか分からず、1年生の頃から担任や副主任の先生に相談を続けていました。3年生で担任が変わり、最初は相談しづらく感じましたが、授業や放課後の自習の時間を通して、少しずつ自分の状況などを話すようになりました。先生は模試の点数や学校の成績を見ながら、「このままいけば、第一志望は狙える」と励ましてくれました。冬には奨学金の予約も決まり、私は毎日必死に勉強しました。そして迎えたセンター試験1日目。雪がちらつく中、私は大コケしました。特に、何度も時間を計りながら問題演習をしてきたはずの国語については、最後の方は文章を読まずに解答していました。2日目の科目も手ごたえを全く感じず、終わったと思いました。自己採点の結果に言葉を失い、その結果を見た父からは厳しい言葉を浴びました。出願校を決める3者面談は、父と副主任の先生も加わり、重苦しい話し合いになりました。そのとき担任の先生が言ったのが、冒頭の言葉です。そして続けてこう言いました。「本気で教師になりたいなら、どこに行っても全力でやれるはずや。学費が不安なら、免除を勝ち取るくらい努力しろ。」

私は、自分が環境のせいにして逃げようとしていたことに気づきました。そこで、入学に必要な費用以外は自分で払うと約束し、英検とセンター試験の結果を使って私立大学へ進学しました。ある程度予想していたことではありましたが、大学では様々な考えの人や楽しい誘惑が多く、モチベーションの維持に苦しみました。それでも勉強と教員採用試験対策に打ち込み、ほとんどの期間を特待生として過ごしました。そして4年生で千葉県の教員採用試験に合格。その後、兵庫県の試験にも合格しました。報告すると、先生は自分のことのように喜んでくれました。今、私は当時の先生と同じくらいの年齢になりました。まだ恩師のようにはなれていませんが、あの先生のように、皆さんの夢に本気で向き合える教師になりたいと思っています。

### 3. 「4月当初の予定」

4月	8日(水)	大掃除・着任式・始業式 8:35までに3階のHR教室に登校。大掃除後、新クラス発表 → 新クラスに移動後 HR → 着任式・始業式 ※午後入学式
	9日(木)	課題考査(1限~4限)
	10日(金)	③④身体計測、⑤⑥離任式
	13日(月)	④講演会 ⑤⑥対面式・部活動紹介
	17日(金)	遠足(USJ)

※提出物の確認(当たり前のことを、しっかりやり切る)

●始業式提出物

①春休み学習計画表

●課題考査後提出物

①国語・英語・数学・理科・地歴の課題

## Speech for Second Year Students

Eoghan

Firstly, I would like to say thank you for all the hard work that you have done this year. Since I have arrived in Japan, you have taken mid-term exams, winter exams, and also your final spring exams. You have also done many performance tests and homework assignments. Many of you have taken optional Eiken exams as well. That is a lot of English work! I am very proud of you all, and you should be very proud of yourself as well. I am glad that I had a chance to teach you for your second year.

Actually, before I came to Japan, I was really nervous. I had never taught in a classroom before. I was very worried that maybe I would not be able to be friendly with the students, or help them. I had heard that Japanese Highschool students can be very shy, and I was scared that I would not have the confidence to be able to teach or do fun activities with them, and that the students would be too scared to talk to me.

But, when I came to Sasayama Homei Highschool, all of my fears disappeared. All of the students here at Homei Highschool were so kind and welcoming to me, even though I was so different from them, and maybe also quite different to the previous ALTs. Homei Highschool students always say hello to me in class, in the school hallways and during their club activities. You also greet me if you see me outside of school, like on the street or in the convenience store. This makes me really happy. I am also very thankful for the other teachers here, who have been so helpful to me when I have questions or problems. Even though I have only been working here in Sasayama Homei Highschool for just six months, I already have so many good memories of my time here. I really enjoyed sports day in September, and was so impressed with your athletic skills. I actually had an opportunity to take part in one of the races, and I really loved it. So, I will practice hard for next year. Also, I visited Uji in Kyoto with some of you in November, and got to see many temples and shrines, which was very interesting. More recently, I watched you all perform in the ball sports festival, which was so exciting to watch. Some students asked me to give them some advice on how to perform well, so that was so fun for me.

But, my favorite part of my time in Japan has been spending every day in class with the students. Doing performance tests, or activities, or even just doing textbook questions, it gives me so much joy to see you all try so hard. I want English class to be a place where you can feel relaxed and have a good time. So, seeing you smile or laugh during our class is the best feeling for me. It makes me want to try hard, because I know that you are trying hard. I love it when a student comes to the teacher's room to ask me a question, or for help with a speech contest. I am so happy to come to school every day, so thank you all so much. Very soon, you will be third year students, the top students in Highschool. This is a big responsibility for you, and many new second year and first year students will look up to you. But I know that you can do it. I think High-school is the best time in your whole life, so please try to enjoy it as much as you can.

I will have many more opportunities to teach you next year, and I am excited to help you through your final year. Please ask me questions anytime. Thank you for all your hard work!